



思誠寮生の青春日記

目次

プロローグ

1. 自治こそ寮の誇りなり
2. 記念祭にかける情熱
3. 戦争と思誠寮生
4. 信州での寮生活



プロローグ

旧制松本高等学校

大正8年（1919）に、松本に設置された9番目の旧制高等学校です。文科と理科が設けられており、現在のあがたの森に校舎を構えました。

三年制で、およそ18歳から20歳までの学生が全国から集まりました。

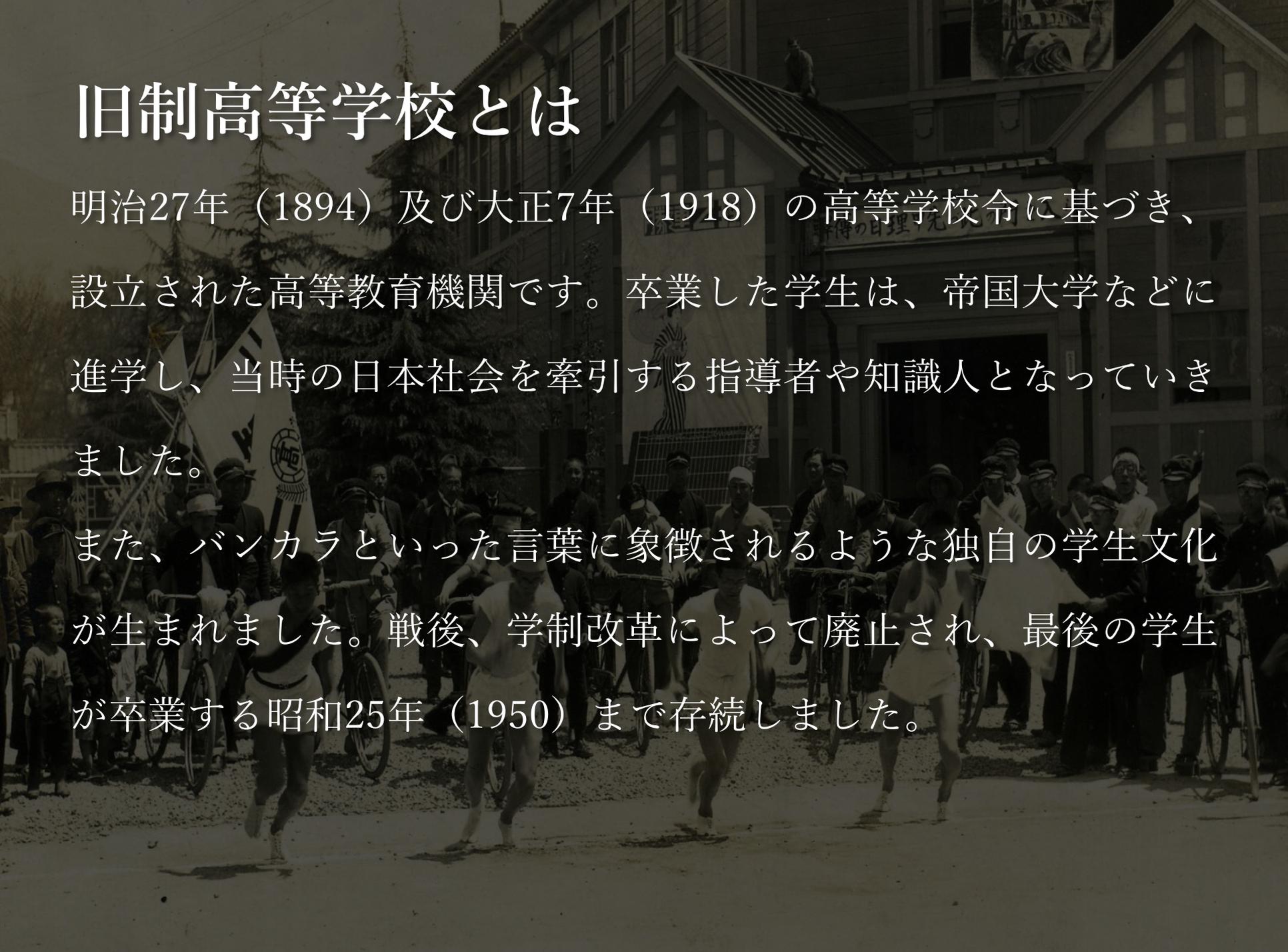
昭和24年（1949）に、信州大学に文理学部として統合され、翌年最後の学生が卒業し、廃止となりました。

（文理学部は現在の、人文・経法・理学部の前身。）

旧制高等学校とは

明治27年（1894）及び大正7年（1918）の高等学校令に基づき、設立された高等教育機関です。卒業した学生は、帝国大学などに進学し、当時の日本社会を牽引する指導者や知識人となってきました。

また、バンカラといった言葉に象徴されるような独自の学生文化が生まれました。戦後、学制改革によって廃止され、最後の学生が卒業する昭和25年（1950）まで存続しました。



旧制松本高校 思誠寮



思誠寮（北寮・中寮・南寮）は、旧制松本高等学校開学の翌年、大正9（1920）9月3日に開寮した学生寮です。

旧制高等学校といえは「学生寮」というほど、両者の結びつきは強く、全国から集まったエリート達は、学校においては「教養主義」、学生寮においては「自治」の洗礼を受け、記念祭・寮対抗駅伝・対寮マッチなどの行事を通じて、人間として成長を遂げていきました。



昭和22年（1947）教育基本法の公布により、24年度には松本高等学校を母体に、新制信州大学文理学部が発足します。思誠寮も大学に引き継がれ、現在に至ります。

寮生の一年・寮生的一天

寮の一年間には様々な行事があります。期待と不安の中で行われる入寮式。寮生としての団結心が試される対寮マッチや記念祭。猛勉強で定期試験をくぐり抜けた後にやってくる夏休み。部屋替えによる別れと新たな出会い…。朝食に始まり、静修（学問を修め、徳性を養い、より高度の人格形成に努めること）に終わる日常も含め、寮での生活を支えたのは、総務部をはじめ、炊事部や図書部などの自治組織でした。

寮生の一年

四月

入寮・寮対坑駅伝大会



五月

対寮マツチ

六月

定期試験・勤労奉仕

七月

部屋替え・夏休み

九月

定期試験

十月

勤労奉仕・寮記念祭

十一月

部屋替え

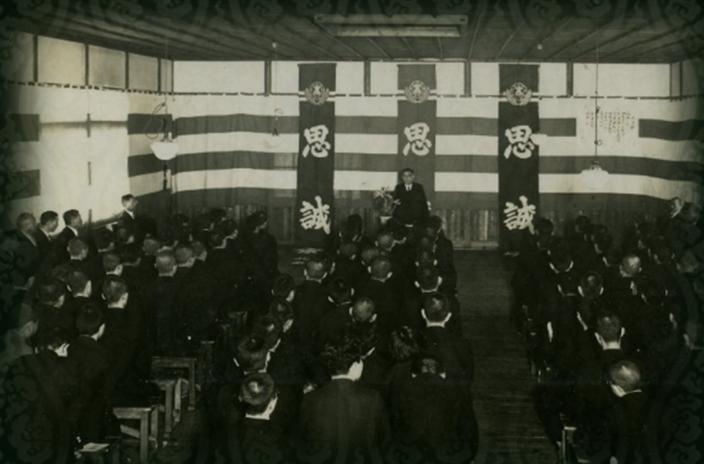
十二月

定期試験・冬休み



4月入寮 – 憧れの高校生活へ –

新入生は期待と不安を胸に入寮式を迎えます。時には遠く離れた故郷に想いを馳せながらも、憧れであった高校生活の始まりに喜びを噛みしめています。



5月 対寮マッチ – 一丸となってズクを出そう！ –

対寮マッチでは、寮対抗でバレーボールやバスケットボールなど、様々な競技が行われます。この対寮マッチを通じて各寮一丸となりました。

6・9・12月 定期試験 – 猛勉強で乗り切れ! –

6月、9月、12月には定期試験が行われます。苦難の後に思いを馳せながら、寮生たちは試験に挑みます。



7月 夏休み – 待ちに待った夏休み –

いよいよ待ち望んだ夏休みがやってきます。寮生たちは、二学期以降の高校生活をより充実したものにすべく、遊びに勉学に、有意義な夏休みの計画を練ります。

10月 寮記念祭 – 青春の歡喜ここにあり –

10月には寮記念祭が行われます。記念祭とは思誠寮の開寮を記念した行事で、学生の作った寮歌が選ばれ、寮劇やファイヤーストームが催されます。寮生たちの誇りの結実である記念祭は、歡喜に満ちあふれています。



7・11月 部屋替え – 新しい生活への出発 –

7月と11月には部屋替えが行われます。寮生たちは、互いに刺激し高め合える同室者との別れを惜しみつつも、新たな友との出会いに胸躍らせました。

寮生の一日

起床 午前 六時

朝食 同六時半—七時半

昼食 正午—午後一時半

入浴 午後四時—六時半

夕食 同五時半—六時半

静修 同七時—十一時半

点検 同 十一時半

外出時限 同 十一半迄



起床 午前6時

寮生の一日は太鼓の音とともに
はじまります。起床後は、朝礼
と体操を行うことが習慣でした。



朝食 午前6時半 - 7時半

毎朝の朝食は寮生の一日の原動力
であり、勉強の糧となりました。



昼食 正午 - 午後1時半

昼食も寮の食堂に戻ってきて食
べていました。



入浴 午後4時－6時半

寮生水入らずの入浴で、一日の汗を流し、疲れを癒やしました。



夕食 午後5時半－6時半

夕食では五目飯、豚汁、茶碗蒸しなどがよく出され、寮生の胃袋を満たしていました。



静修 午後7時-11時半

学問を修め、徳性を養い、より高度の人格形成を目指し、勉学や読書など思い思いに過ごしました。



目次

プロローグ

1. 自治こそ寮の誇りなり
2. 記念祭にかける情熱
3. 戦争と思誠寮生
4. 信州での寮生活



1. 自治こそ寮の誇りなり

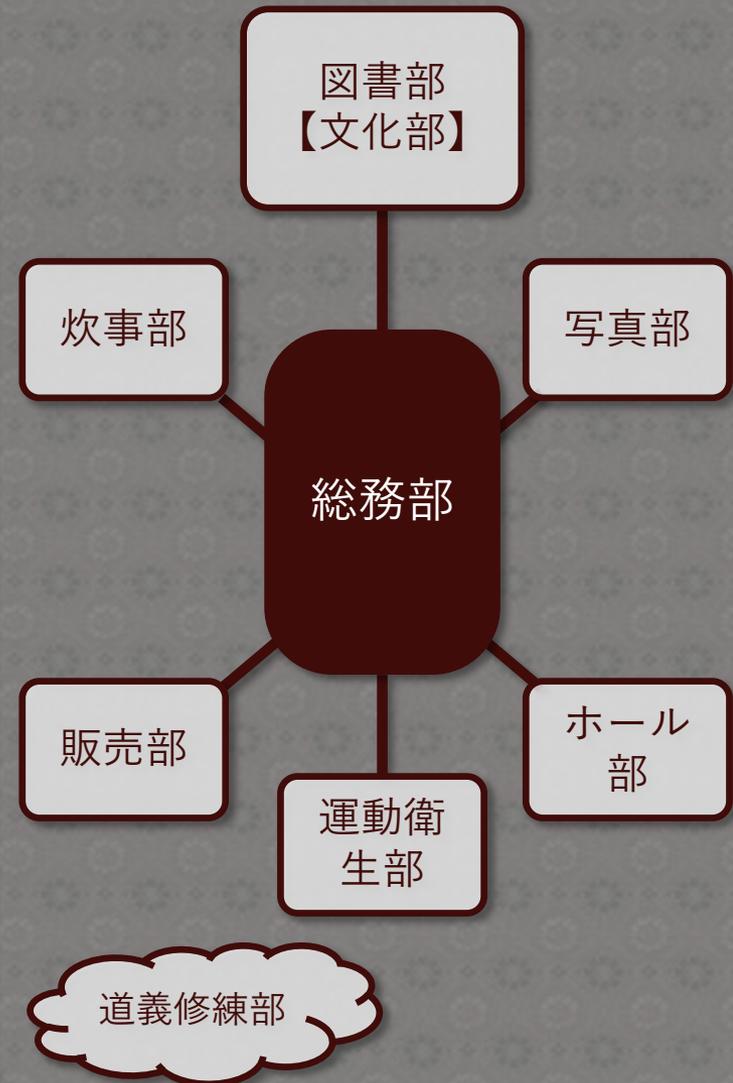
旧制高等学校といえば「学生寮」というほど、両者の結びつきは強く、学生たちは寮において「自治」の洗礼を受けました。

「思誠寮」の学生たちは、どのような組織を作り、どのような活動を通して自治の精神を育てていったのでしょうか。

第一部「総務部」、第二部「炊事部」、第三部「図書部」、第四部「道義修練部」の四部構成で、寮生による自治活動の様子を追っていきます。

思誠寮の自治組織

思誠寮は、総務部を中心に複数の自治組織によって運営されていました。戦中には、自治組織ではないものの、道義修練部のような団体も作られ、寮生活に大きな影響を及ぼしていました。



第一部 総務部

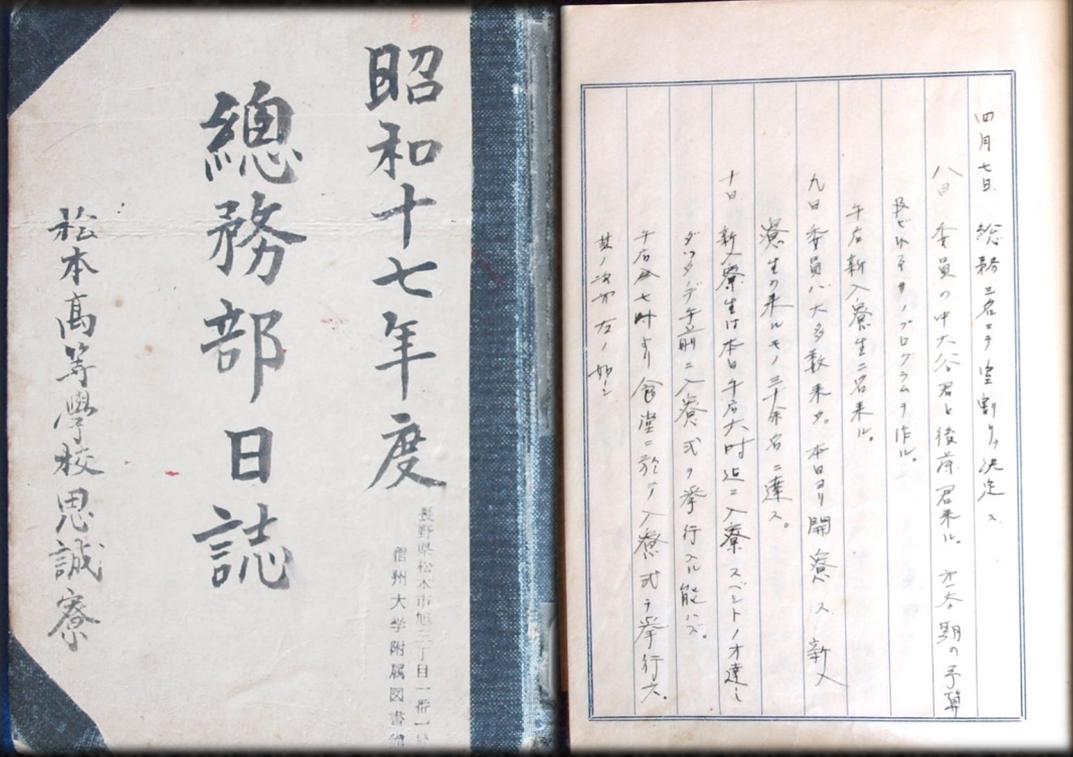
総務部は、寮の運営を統括する部署です。毎晩行う点検から、ある時は後輩へのストーム指導、ある時は入寮準備・駅伝運営・総会開催など、その業務は多岐にわたっていました。



第一部 総務部

『総務部日誌』

総務部の日々の業務について記されており、寮の運営の様子を知ることができます。昭和8、10、14~17、20、23年度分が残っています。



点検

4月の総務部の日々の役割として、午後11時半の外出時限までに、寮生が寮に戻っているかを確認する「点検」があります。委員たちは「点検によって寮の風紀は保たれる」という自負と責任感をもって活動に取り組んでいました。



寮の各部入部希望を夕食後各総務の許迄提出させる。数名未提出の者あり。又各総務がその寮の委員を集めて点検の仕方、帳簿記入法を説明する。尚門限の点検が嚴重に行はれれば他の事はうまく行き、寮風も乱れる事がないので特に嚴重に行ふ様注意してをく。

ストーム指導

廊下を飛び跳ね、寝ている者を叩き起こし、寮歌を大声で歌う「ストーム」。総務部は新入生にストームのやり方を教え、注意をするなど指導をしました



ストーム

午前三時一年生の返礼ストームあり。
総務三人共起き、ストームに就て破壊
せぬ事その他二三注意し南寮階上より
始める。仕方等も教へ、ついて廻る。
参加者八十余名、中には草履の者もみ
た。大勢の割に足も揃ひ、最初のス
トームとしては上出来だ。（省略）

昭和14年4月11日『総務部日誌』

入寮準備

4月の入寮日にむけ、寮に残った2年生の委員たちは、新入生を迎える準備に腐心しました。新入生の宣誓を受けることは、総務部の重要な役割の一つでした。



入寮日について

総務委員長として入寮日の宣誓を受けるのは、今迄の考へに依れば形式的なつまらぬものだと思つてゐた。併し、一年間の生活を共にする彼等の一人一人を間近に見て、宣誓を受けると、一人一人が寮生活に取つて非常な意義を有するやうに見へて来る。

入寮準備

昨夜晩かつたので皆ぐつすりとゆつくり眠り、十一時に中寮二号室に勢揃ひして委員会を開く。

決議事項左の通り。

一、四月五日の役割を定む

総務部はプリントを刷り、販売部は品物を買入れ、其の他の委員は、到着した荷物を各室に運搬する。

一、四月六日の役割を定む

総務部は宣誓、販売部は販売、写真部は受付、其の他の委員は新入寮生の案内、及び駅頭に出迎へること。

一、行事予定表作成に就き了解を求む

今日の昼食より寮で作って貰う。昼食は直ちに定められた役割に従つて全員活動を開始す。（省略）

第二部 炊事部

寮生の食と健康を支えるため、創意工夫して献立作りに励みました。入寮歓迎晩餐会や記念祭の晩には、ご馳走が振る舞われ、寮生たちも心待ちにしていました。その費用を確保するため、安価に食材や食器類を調達することも、委員の腕の見せどころでした。

炊事部のモットー

如何にして、出来るだけ栄養有り、うまいものを、多量に喰べさせようか。其の為には、如何にして、安くて好い品を、買入るか。之が常に変らざる、炊事部のモットーである。先輩の貴い遺産が、百数十種の献立となつて、残つてゐる。此を寮生の嗜好に感じ、栄養を考へ、適当に分配して、一週間の献立表を作る。

昭和15年4月5日『総務部日誌』

第二部 炊事部



献立の作成

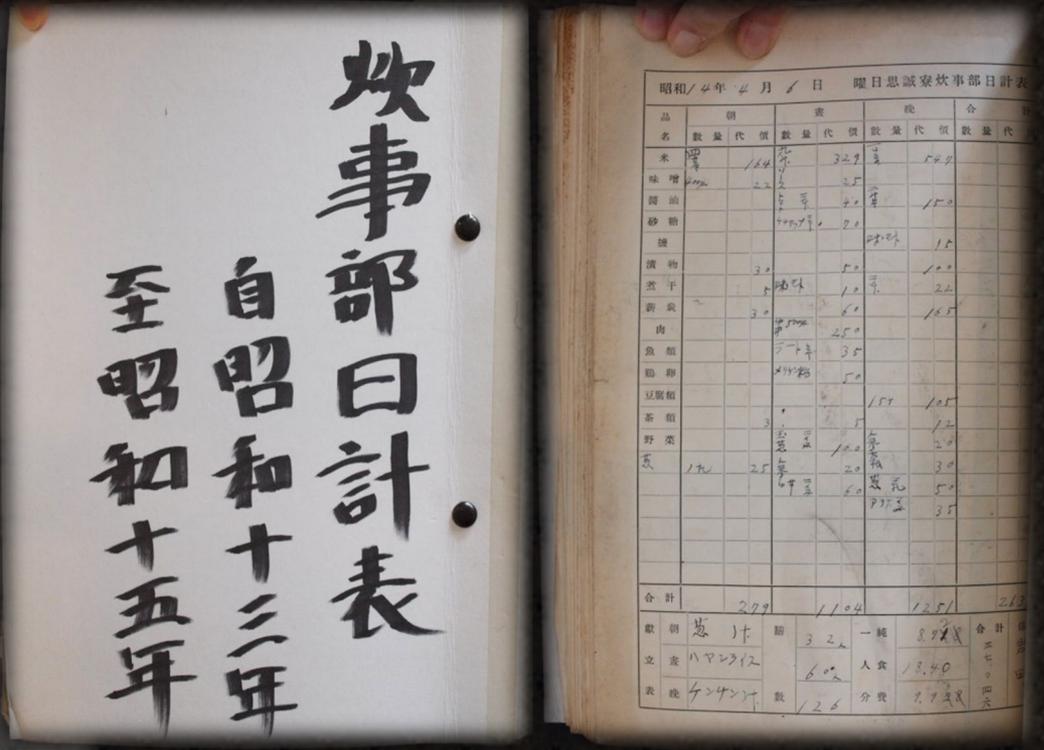
昭和8～14年度の献立と食材費を記した『炊事部日計表』からは、比較的食料が豊かであった時期の寮生の食生活を窺うことができます。朝食は様々な具材の味噌汁とご飯、昼食は丼など手早く食べられるもの、夕食は和食・洋食・中華から思誠寮特別メニューまで、多彩な献立が並びます。



食事の献立作成

『炊事部日計表』

一日の献立と、使用した食材の数量や単価を記したもので、寮で提供されていたメニューを知ることができます。大正13～昭和2年度、昭和9～15年度分が残っています。



炊事部日計表

自昭和十三年
至昭和十五年

昭和14年 4月 日		曜日		忠誠寮炊事部日計表	
品名	数量	代価	数量	代価	数量
米	1.44	32.7		52.8	
味噌	2.2	2.5		15.0	
醤油		2.0		1.5	
砂糖		1.0		1.0	
漬物	3.0	5.0		1.0	
菓子		1.0		2.0	
薪炭	3.0	6.0		16.5	
肉		25.0			
魚類		3.5			
鶏卵		5.0			
豆腐類		1.5		1.0	
茶類	3	5		1.2	
野菜		10.0		2.0	
炭	1.7	2.5		3.0	
				5.0	
				3.5	
合計	2.77	110.4		125.1	26.8
献立	葱汁	3.2	一膳	8.7	
立費	ハヤシ汁	6.0	人食	1.40	
表紙	4>4>汁	2.6	分費	7.7	

移り変わる献立

戦前（昭和14年4月6～19日）と終戦直前（昭和20年8月1～14日）の2週間の献立をご紹介します。



食事の献立表

第二部 炊事部

昭和十四年度『炊事部日計表』より

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	日
わかめ汁	豆腐汁	大根汁	甘菜汁	白菜汁	かんぴょう汁	馬鈴薯汁	玉葱汁	豆腐汁	わかめ汁	蜆汁	油揚げ汁	大根汁	葱汁	朝食
精進揚	木乃葉丼	焼飯	シューマイ	フィッシュフライ	カレーライス	中華丼	オムレツ	チキンライス	コロツケ	野球丼	パン 紅茶	ビックリ丼	ハヤシライス	昼食
すし	メンチボール	五目飯	照焼	肉うどん	野菜サラダ	柳川モドキ	トーフータン	豚肉生姜焼	非常時飯	サモカン	会食	三ツ盛	ケンチン汁	夕食

昭和十四年度四月六日～十九日の献立

戦前

「カレーライス」や「豚肉の生姜焼」など、メニューは豊富で、ボリュームのある品が並びます。

終戦直前

戦前とはうって変わり、漬け物や「乾燥野菜」など質素な食事が続きます。食糧事情が一段と厳しくなったこの時期、ビタミンB₂を主成分とする滋養強壮剤「強力ワカフラビン錠」も夕食として提供されていました。



ワカフラビン

第二部 炊事部

昭和二十年度八月一日～十四日の献立

『会報』八十八号より

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	日
きゅうり	ねぎ	きゅうり	ねぎ	こんぶ	きゅうり	大根	きやべつ	わかめ	菜	大根 きやべつ	わかめ	きやべつ	わかめ	朝食(みそ汁の具)
みそづけ	とろろこんぶ	たくわん	【休み】	かじき みそづけ	みそづけ	柿 大根のみそづけ	柿 大根のみそづけ	みそづけ	じゃがいもの煮付け	大豆 ひじきの煮付け	みそづけ	みそづけ	みそづけ	昼食
ねぎ 野菜の煮付け	きゅうり にしん	大豆 じゃがいも ねぎの煮付け	【休み】	乾燥作野菜 きゅうり	きゅうり トマト	大根 ねぎ じゃがいも トマトの煮付け	きゅうりもみ	乾燥野菜の煮付け トマト一個	ひじき こんぶの炊き込みご飯	乾燥野菜の煮付け	きゅうりもみ 薬(わかふらびん)	乾燥野菜の煮付け	ひじき飯 つけ菜	夕食

献立ランキング

朝食・昼食・夕食において、
登場回数の多かった寮食メ
ニューのトップ10を発表し
ます！



朝食ランキング

朝は慌ただしいためか、
すぐに食べられるよう、
汁物が中心に出されます。

順位	メニュー	回数
1	油揚げ汁	107
2	若目汁	103
3	豆腐汁	98
4	キャベツ汁	95
5	大根汁	86
6	葱汁	65
7	青菜汁	50
8	里芋汁	44
9	玉葱汁	39
10	白菜汁	32

昼食ランキング

「カレーライス」や「チャーハン」は昔も今も定番メニュー。

勉強に勤しむ寮生の胃袋を満たす、ボリュームのあるメニューが上位に並びます。

順位	メニュー	回数
1	カレーライス	52
2	チャーハン	44
3	コロッケ	43
4	ハヤシライス	39
5	野菜サラダ	36
6	野球丼	36
7	勝丼	34
8	チキンライス	29
9	メンチボール	25
10	鰻丼	25

夕食ランキング

「茶碗蒸し」や「湯豆腐」も主菜として出されます。

順位	メニュー	回数
1	五目飯	32
2	豚汁	31
3	茶碗むし	30
4	湯豆腐	25
5	肉うどん	24
6	野菜煮	24
7	照焼	23
8	トーフータン	23
9	柳川もどき	22
10	天ぷら	18

思誠寮変わり種メニュー

野球井

グリーンピースをボールに、
牛蒡をバットに見立て、肉
の唐揚げと玉葱の炒め物で
グラウンドを表現した思誠
寮オリジナルメニュー。



思誠寮変わり種メニュー

非常時飯

具なし味噌汁に飯だけという「非常時飯」は、炊事部の予算が底を尽きかけた時に出ました。

ビックリ丼

思誠寮名物「ビックリ丼」は、丼の蓋を開けるとテコ盛りの飯だけがあり、具がなく驚くという新入寮生を歓迎する恒例のメニュー。実は、具は丼の底に敷いています。

風呂の管理

炊事部の役割は、寮食の提供だけにとどまらず、風呂の管理も行っていました。昭和5年度の『炊事史』からは、寮外生の無断入浴に頭を悩ませる委員の姿が浮かび上がります。

委員会開かれ、その席上、寮外生入浴について論議さる。されば委員会後、炊事部委員のみにて種々考究したるも妙案なく結局次の如く定む。

- 1、学校に計りて運動部員のために屋内
体育場横の風呂場を改善せしむる事
- 2、注意書を出して寮外生の反省を促す事

昭和5年4月15日『炊事史』

風呂の管理



第三部 図書部

寮内の図書室における書籍の提供を主な活動としていました。自治制の確立と共に、図書部から文化部へと名前を変え、寮誌の発行や、短歌俳句会・カルタ大会・講演会の開催など、活動の幅を広げていきました。

第四 各部規定（省略）

第十九条 文化部ハ左ノ任務ヲ掌ル

- 一、 学術研究ニ関スルコト
- 一、 図書購入及ビ保管等ニ関スルコト
- 一、 印刷物ニ関スルコト
- 一、 趣味情操ニ関スルコト
- 一、 当部ノ会計ニ関スルコト



図書室の書籍（例）

思誠寮図書室には、文学・哲学・地理・歴史など、様々なジャンルの書籍がありました。

『日本に於ける仏教思想移植史』

『経学の発展』

『歴史』

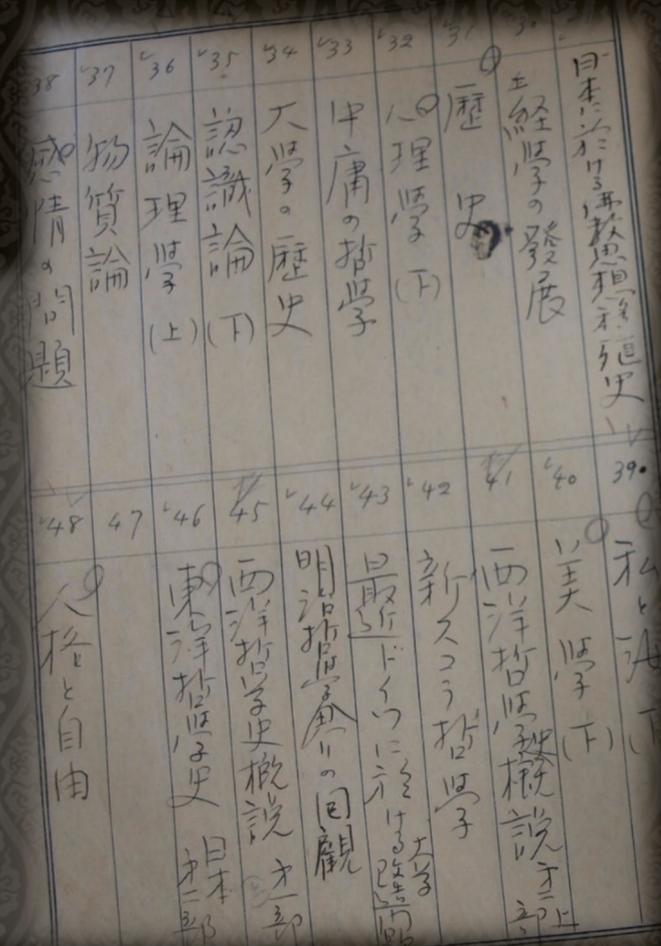
『心理学（下）』

『中庸の哲学』

『大学の歴史』

『認識論（下）』……

その数は約2500冊にも及びます。



『図書原簿』



思誠寮図書室の本棚

蔵書一覧（昭和21年『図書原簿』より）

展示では、特大パネルを用い、図書室本棚の再現をしました。

図書の管理

図書室の本の管理は、図書部の主な仕事でした。

当時の図書原簿からは、学術書から実用書に至るまで、多岐にわたる図書に囲まれ過ごしていた寮生の姿が窺えます。

（省略）委員会後、図書部、総務部集り、図書部より図書室の映画の友が三冊紛失につき、寮生の家宅搜索を許可してくれるようにという話があり（省略）



昭和10年5月4日『総務部日誌』

図書部は、寮の文芸活動にも携わっていました。

寮誌・寮報の発行、寮歌の募集・選定、短歌俳句会・講演会の開催などを行いました。

寮報の発行

同じやうに明けて暮る日は何も書かない事にする。何を書いたって結局同じ文句の意味ない羅列に過ぎぬから。

図書部委員は寮報の原稿集めに走る。締切は十五日ださうだ。

寮歌の選定

午後三時より支払を行ふ。八時より新しい寮歌合評会が図書部により行はる。歌詞について縷々の批評、意見が出て、その後投票を行ふ。(省略)

昭和14年9月29日『総務部日誌』

短歌俳句会

午後七時より、図書部主催、短歌俳句会行はれ、十二時迄続いた。仲々(ママ)の盛況ぶり。

昭和10年10月31日『総務部日誌』



カルタ大会

第四部 道義修練部

寮を運営するための組織ではありませんが、寮生活に大きな影響を及ぼしました。戦時下に結成された道義修練部は、国家のために心身を鍛練することを説きました。彼らが「駄弁り」の場に姿を現すと、空気が一変したと言われていています。

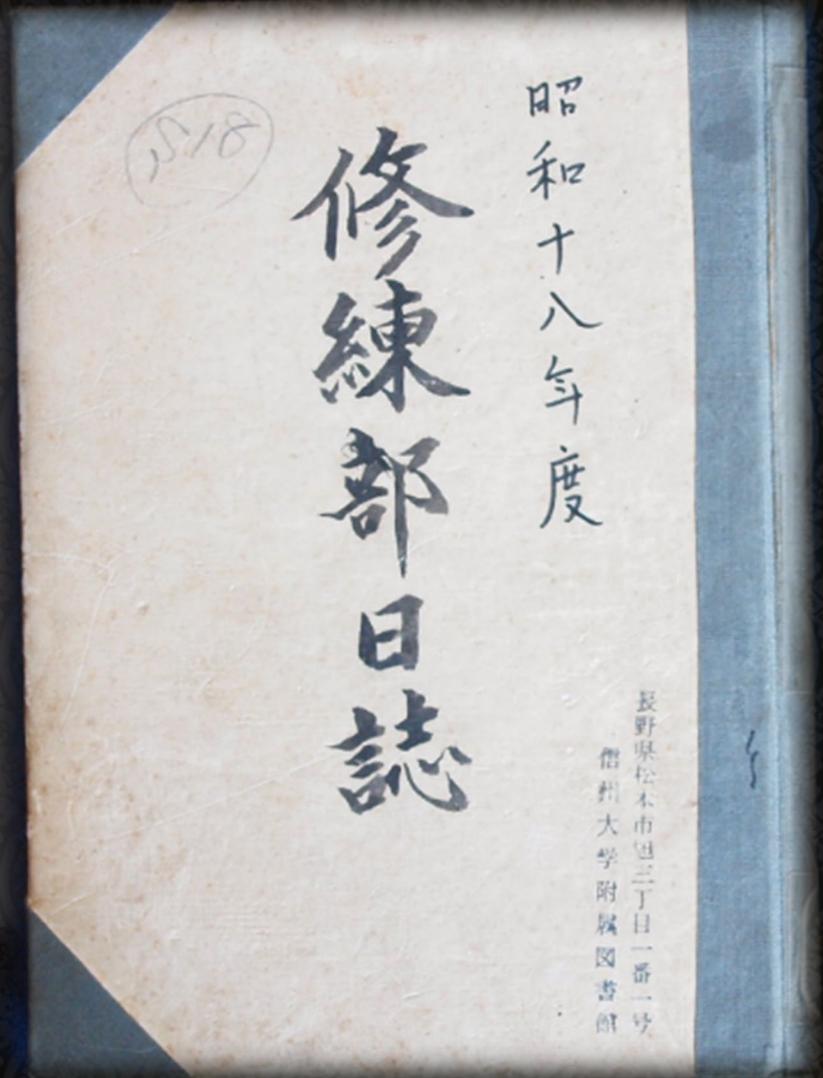
昭和18年度の『修練部日誌』からは、団体行軍などの行事に道義修練部が積極的に関わっていた様子を読みとることができます。



第四部 道義修練部

『修練部日誌』

修練部に関する日々の業務
が記録されており、戦時下
の寮生活を窺い知ることが
できます。
昭和18～20年度分が残っ
ています。



団体行軍

団体行軍の方法、行路、役員などが詳細に書かれています。

四月十五日 (松平高校創立記念日)

。団体行軍行はる。

方法、各寮三組、一組八名、残りのものは補缺、救護
ホストに当る。

2. 各組二分毎に出発、
程に要したる時間によつて順位を定む。

3. 採點は一位一丸點、二位八點、... 九位一丸點。

但し落伍者一名以下もある組は採點せず
決勝線は各組毎に全員「繩」を握りこ入る
こと——距離を離すと、組毎に團結するを
要す。

行路 松高正門前——薄川——中山村——西山

西——薄川——松高、全行程約十六軒。

役員。寮残留 林五、羽田、井出、小林、伊奈、

。北寮附添 岩崎、林三、鈴木

中寮 藤岡、今井、一政

南寮 吉田、渡邊、中村

。ホスト 柳村、大場 (村役場)

ホスト 石井、横田 (脳病院)

。寫真係 矢野

但本年度は中寮選手中に故障多かりし為、一組

七名となりて実施、南寮はホスト組の一年の執心なる

希望によりれ名とし、各寮の採解を得たり。

選中救護用医薬品、非常に少なく、案じたりしが

事なりて済す、葡萄酒のホスト寮会細江喜重の斡旋

によりて同氏のホスト寮(親戚)の酒店より一ホストの融通を受く、

サロチール、ヨードタンキ等の必需品は相当回すより

手廻しおく必要あり。

第四部 道義修練部

寮生の中には、道義修練部の幹事として、その活動の中心となり、学徒動員が始まった際には、徴兵延期であった理科から文科へと転科、軍の幹部候補生となり、やがて特攻隊員に志願するほど、皇道思想に傾倒した人もいました。

日誌の文章からは、国家のために鍛錬をすること、国体のために命を捧げること、など道義修練部の思想の一端を窺うことができます。



第四部 道義修練部

年春先の四月五月には病人が多く出るのですが、今年は又随分病人が出てある様に思へます。自分の身体と雖も陛下へ捧げた身体であり、国家の大事を背負つてゐる身体でありますから、よく健康に気を付けて下さい。我々は現在戦争下にあるといふことを忘れてはなりません。此大戦が喰ふか喰はれるかといふ日本の国体にかけての非常の戦ひであることを、片時も忘れてはなりません。

日本人たるもの、一命を捧げて国体を護持し奉る覚悟を更に固くしなければならぬ秋（「とき」右傍）であります。日本人の一人々々が、各々の立場に於て、一命を捧げて尽くしたならば、決して尊厳なる国体は傷け（ママ）られないのです。併し己れ自ら省みて、高校生の立場に於て、真に自分が一命を捧げて国に尽くしてゐるとは言へません。

第四部 道義修練部

此処に於て我々は益々奮ひ立って努めなければならぬのです。高校生としての立場より、如何に努めて行くかといふことは簡単なことではありません。国家の状勢は、決して一定してゐるものではありません。それを洞察して、対処するに足る明識を養ふことは、實際上に於て国に尽くす事と共に大切なことです。その為、広い精深なる学問を必要とすると思ひます。私達の行手は安易な道ではありませんが、思誠寮生百二十名丈でも本当に立ち上ったなら、大きなことが出来ると確信して居ります。めげず恐れず、大いに勉めて行かう。米英の青年も必死に勉めてゐることを忘れずに。

昭和18年4月9日『南寮日誌』 林五郎

第四部 道義修練部

道義修練部は、終戦と同時に姿を消しました。

その後、旧制松本高校は信州大学文理学部となります。

思誠寮生が育んだ自治の精神は、新制思誠寮生へと受け継がれ、
現在も自治によって寮は運営されています。



目次

プロローグ

1. 自治こそ寮の誇りなり
2. 記念祭にかける情熱
3. 戦争と思誠寮生
4. 信州での寮生活



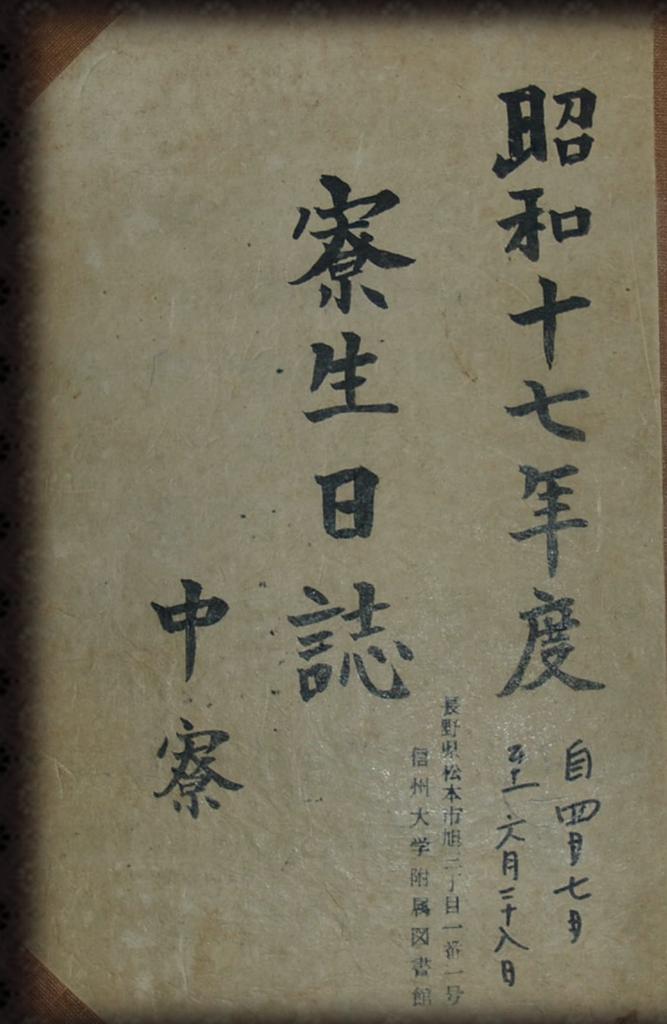
2. 記念祭にかける情熱

寮生日誌は、9月頃から記念祭への意気込みを綴った文章一色になってきます。記念祭の様々な催しの中でも、寮劇に対しては、全情熱を注いで取り組んでいた事が窺えます。

第一部「記念祭に向けて」、第二部「記念祭本番」、第三部「記念祭を終えて」の三部構成で、記念祭の様子を追っていきます。

寮生日誌とは

旧制高等学校記念館には、昭和17～19年の思誠寮生の日誌が所蔵されています。寮生日誌を開くと、駅伝・試験・記念祭など、学校や寮の行事を経験しながら旧制高校生として歩む寮生の姿を見ることができます。



記念祭とは

思誠寮の開寮を記念して10～11月頃に催されていた行事です。

「年に一度の寮生活のハイライトである。日頃女人禁制の寮が市民に開放され、各室は思い思いの趣向にデコレーションを競う。模擬店、仮装行列、寮生劇と今日の学園祭の学園祭の原型もみられる。同時に募集された記念祭寮歌の当選作が発表される他、記念絵ハガキなどの発売もあった。」

『旧制高等学校の青春』より

第一部 記念祭に向けて

寮生は昼夜を問わず寮劇の準備に励みました。寮劇の練習を通して、努力の美しさや団結を確認し、また、心の怠惰を誡めます。時には繰り返し行われる劇の練習に飽きてしまう様子も見られますが、記念祭を締めくくるファイヤーストームの感激を想像しながら、記念祭に向け尽力するのです。



準備・意気込み 1

昭和19年9月18日南寮 皆川忠

一昨中吹荒した暴風の過ぎ去つた後の今日の朝は実に新鮮である。空気の香空の色四方の山々の景色樹木の色すべてが我々に秋の来た事を告げて居た。昨日までのあの不順な天気と位べて今朝のすがすがしさ今更のやうにもう秋になつたと感ぜざるを得なかつた。そしてそれと同時に此の思誠寮に入寮して以来の出来事がなつかしく思ひ出されて来た。そして更に又、現在、思誠寮最大の行事である記念祭に直面してゐるのだと言ふ事が強く頭の中に響いた。」**記念祭！我々は之に全情熱を打ち込んで之に向はなければならないのだ。**そのため記念祭の用意も一週間ばかり前から行はれて居る。しかしそれに対し我々はどうも熱が足りないやうに思はれる。この前の日曜の連取にしても半分しか出てこない、このような事ではだめだ。各自一人々々が熱を以て之に当つて行かななければならないのだ。十月一日まであとわずか十日我々はこの十日間に全情熱を打ちこんで行かうではないか。

第一部 記念祭に向けて



寮劇準備

準備・意気込み 2

昭和19年9月18日南寮 皆川忠

寮劇への準備も愈々たけなわとなつて来た。一丸となつて一つの目標に精魂を打ち込む気持よさに酔ふ者は豈私一人ではあるまい。あと僅かだ、頑張り抜かう。本当に後になつて後悔しない様に毎日々々を充実させて行かう。一日を如何に生き、如何に行動するかと入寮以来デンケンしつづけて来た我々ではないか。寮劇といふこんなはつきりと明示された目標に対し手をこまねいて、傍観視する等と言う事は我々が寮生活を愛してゐない記号なのであり、結局それが寮をスポイルする小さいながらも重要な原因となる事に我々は思ひを至すべきであらう。人は或は寮劇に忙殺されて、沈潜した生活が送れぬ、デンケンが出来ぬと言ふかも知れぬ。然しながら私はそんな人に対してこう叫びたいのだ。君達は一体何の為の寮生活をやってゐるのか。そして寮劇といふ大きな対象に対し少くとも全霊全霊捧げ切つた時今此れより高い、充実した生活があるか”と・・・（省略）本当にあと僅かで記念祭だ。皆張り切つてファイヤー・ストームの感激を味はうではないか。（省略）

第一部 記念祭に向けて



準備・意気込み 3

昭和17年10月31日中寮 森田慎

いよいよ今月も終りだ。約七ヶ月の高校生活を無為に過したことを淋しく思ふ。ヤラウヤラウと考へるだけで実行がともなはないのだ。目前に迫った記念祭を期して決心を新たにしていゆかう。(省略) 毎日劇の猛練・俳優の苦心もさることながら道具係・其他全員が苦心した甲斐あって今日は最後の総合練習を行った。既に何度も観てゐる劇を今日も二度行ふ。俳優に対しては甚だ失礼であるが少々アキてきて、寒さと眠さをこらへるのがせいせいである。しかしこの怠惰な心にもこれまでの俳優諸士の苦心を思ひやる時、寮劇は眼でのみ観るのではない胆で観ろと考へさせられる。もうあと二日だ。中寮頑張らう。

第二部 記念祭本番

一ヶ月にも及ぶ準備期間を駆け抜け、いよいよ記念祭の本番です。記念祭の要である寮劇では、役者、舞台裏ともに努力を重ね、達成感に酔いしれました。記念祭最後を飾るファイヤーストームで、寮歌を歌い、踊り、喧噪の中に記念祭は幕を閉じるのでした。



第二部 記念祭本番



第二部 記念祭本番



昭和8年5月14日の記念祭用ポスター

寮劇



秋田雨雀『国境の夜』の一場面



久米正雄『地蔵経由来』の一場面



芥川龍之介『捨兒』の一場面

寮劇



ファイヤーストーム



第二部 記念祭本番

昭和17年11月4日北寮 細江喜重

記念祭は感激と、新たなる決意とに終った。夏休以来我々が期待し、精神してきた記念祭は、ファイヤーストームの余燼とともに消えた。此の二十日ばかりの間、我々が、寮劇にかたむけて来た努力は、実に大したものだった。一つの対象に向つて、寮全体が火の玉となつて、つき進んで行く。そこに、行を共にし、心と心と交はり得る友情と、喜がある。大道具、小道具、演出、すべてが渾然一致して、あの「ドモスの死」的一幕が出来上つたのである。（省略）ファイヤーの燃えるまほりを、ひたぶるに踊りつづける。何もない、ただあるものは、青春の歓喜と、我思誠寮生たりといふ誇である。一色にぬりつぶされた周りの闇の中には、血みどろの苦闘と、涙の友愛で、今日の思誠寮たらしめた先輩の魂が浮動してゐる。空には満天の星が輝く。それをながめて、寮歌をどなる時、これからだ、やるぞ、といふ気が腹の底から押し上つて来た。

第二部 記念祭本番

昭和17年11月6日中寮 石黒

一枚々々厚紙を重ねる様に積み重ねられて行った記念祭の跡片付けも、もう終って了った。思へば楽しい記念祭ではあった。少くとも昨年よりは、成功と名づけられる資格は充分あると確信出来ると思ふのである。教授達も多数招かれて、こんなものならもっと前からやるべきだったと寮を知らぬ教授達に寮生活を再認識せしめ、二寮会の人々も驚歎してその成功を心から祝ってくれた—我々の寮劇も斯くして終りを告げたのであった。—昨夜慰労の意味で幹事丈でカキ船で晚餐を食べた。誰も疲労と睡眠不足に憔悴して瘠せてみた…。思へば長い間の苦しみであった。寮生活より我々丈の未経験のものを創造した生みの苦しみ—そんなものを味ったのである。（省略）その演出の欠如、その他の難点は之を来年の人々の研究に俟つつとして我々の目指したものを成し遂げたのは喜びに違ひなかった。皆さん本当にご苦労さんでした。各寮慰労懇巴の味はいろいろの思ひ出に華を咲かせよう。

第二部 記念祭本番

昭和17年11月14日中寮 村田二郎

寮劇も遂に終わりました。演出者として、細い点ではいろいろの欠点があつたでせうが兎に角大過なくすんだのです。約二十日間に渡る猛練習が報はれたわけです。先日のコムパで「舞台裏に涙ありき云々」とか云ふ歌が出ましたがあの歌はそのまま舞台裏に適用されると思ひます。始める前には苦(ママ)し失敗したら、二年生の幹事の人達を始めとして中寮生諸君に何とおわびしてよいのかこんな気持で胸が一満でした。それで無事に終つた時には唯嬉しくて嬉しくて涙が流れました。齋藤さんの「うまく出来た」と云ふお言葉(この様なところに寮生劇のよさがあるのではないでせうか)で今までの苦しみは一時について飛んでしまひました。自己の全ツクを或る事につぎ込む処に情熱としての高校生活の面白さがあるのだと思ひました。(省略)

第三部 記念祭を終えて

熱く燃え上がった記念祭を終え、寮生達はそれぞれの想いを寮日誌につづっています。彼等は、特に寮劇を通して一体感を味わい、寮への想いを再確認しています。また、情熱を傾けていた記念祭への想いからか、脱力感に襲われている寮生もいたようです。



第三部 記念祭を終えて

昭和17年11月4日中寮 大戸

我々思誠寮の記念祭も昨日で終った。こゝに私は多くの問題を与へられたることを喜ぶのである。生活に於ける具体的なる表はれ、これが今回の記念祭ほどに表はされたるものはなかった。一人一人の力の集合、各々の目覚め、私は常に大いなるものを見ながら進んでゆきたいと思ふ。それらの個人が自分自身を他に於てはっきりと見出す事が出来るのこそ第一の自己への愛ではないだらうか。歴史の流れ私達の前む道この前に対するものは何人たりともさへぎる事は出来ぬであらう。断片的なる事ばかりをこゝに記しておく。

第三部 記念祭を終えて

昭和17年11月8日北寮 森口兼二)

記念祭を終へて、何か新生の香が漂ふ。朝開き歌で明けた今後の生活と考へ合せて、記念祭は内省へ、内省へ、のメタモルフォルゼの契機であらねばならぬ。自己に峻烈に、唯々『投ずることに依る超越』を自覚して欲しい。間もなく思誠の原稿の募集とならうが、之が私達の姿とギャツプの無い素直なドキュメントであって欲しいものだと思ふ。

第三部 記念祭を終えて

昭和17年11月5日中寮 鳥山

記念祭もとどこうり無く終った。何か重にを下した気持…といふより気が抜けた様な気分である。約一ヶ月間の努力が寮劇に費やされたが、劇寮の巧拙は別として、私はこの一ヶ月間、皆と一諸に、一箇の目的にズクを出し合ひ、苦心をし合った事を一層有難く思っています。今更ながら寮へ入ったのを喜んで居ります。劇をやって見て、道具舞台装置係もさうであるが、俳優をやって見て、全体と個人の関係を痛感致しました。記念祭が余り大きかったから、後に空虚な感じを以てみる様に思へる。読書も勉強も心が入らず、目が紙の上を沁ってゐる様に感じる。たゞ町へ行って見ようと思ったりする。遊んで見たくなる。…こんな様な時が我々には危険である。緊張を弛めずに進みたい。井上先生の云はれた如く当時のこの気持ちをもって以後の諸々の事に当って行かう。

第三部 記念祭を終えて



記念祭終了後集合写真（中寮）

目次

プロローグ

1. 自治こそ寮の誇りなり
2. 記念祭にかける情熱
3. 戦争と思誠寮生
4. 信州での寮生活



3. 戦争と思誠寮生

ここでは寮生日誌を戦時下・戦後の二部構成で見っていきます。

戦時色が強まる社会で、寮生たちはどう生きてきたのか。

また、その考えは戦争終結後どのように変化していったのか。

揺れ動く寮生たちの思いを追っていきます。

現在だからこそ、彼らの言葉をもう一度見つめなおす必要がある

のではないのでしょうか。

第一部 戦時下の思誠寮生

仲間と共に青春を謳歌する寮生の日々は、戦争が忍び寄る中で次第に変化していきます。戦争により失われていく日常と、迫り来る非日常。そこには、揺れ動く思いを抱えながらも、国の未来を信じ様々な困難に立ち向かおうとする寮生の姿がありました。



対寮駅伝大会中止

昭和17年4月19日、寮生たちが心血を注いできた対寮駅伝大会当日。無情にも空襲警報のサイレンによって大会は中止となってしまいます。優勝を目指して努力を重ねていた寮生たちは中止の知らせに肩を落としますが、国に非常時が差し迫っていることを実感し、学生としての義務を果たそうと気持ちを新たにしています。

第一部 戦時下の思誠寮生

対寮駅伝大会中止

昭和17年4月19日北寮 森田賢太郎

若人の熱と力を発散さすべき駅伝は終にやつてきた。四月十一日以来必勝を期して全北寮生一体となつて練習を積んで来たのに突然響き渡つた空襲警報のサイレンによつて中途にして止められ優勝を成し遂げずに終つたことはかへすがへすも残念な事である。午前九時頃全北寮生南側の窓に集り、応援歌を歌い、拍手を行つて戦前已に敵を呑むの気概があつた。(省略)いよく出発といふ際に井上先生より、「今や全く引きしぼられた矢が弓を離れんとしてゐる時のやうなものである」とのお話があつたが全くその通りであると思つた。続いて佐藤さんより「若し空襲警報が発せられたら駅伝は中止する」と話されたが、そんなことは決してないものと思つてゐた。それが駅伝が始まつて十分もた、ない中に現実となつて身にせまつて来た。其の時の皆の驚きといふよりは如何にも残念さうな顔が今でも目に見えるやうである。

第一部 戦時下の思誠寮生

対寮駅伝大会中止

昭和17年4月20日中寮 山本皎二

入寮以来、僕等は、毎日毎日駅伝にズクを出せ、一学期の最大行事は駅伝であると聞かされ、僕は、実に大なる、希望と、期待とを持つてゐた。此の為、僕は、是非選手にならうとして、未だ癒らない胃病をおして、頑張つたのであつた。然るに其の結果はどうであつたか。駅伝は遂に中止となつてしまつたのである。僕は、あの警報を聞いた時、直ぐに「中止せよ」、との言葉は浮んだものゝ、いや、此処迄やつたのだ。どうしても最後迄やりたいと言ふ考に打ち消されてしまつた。併しやがて我にかへつた時、僕は、「非常時」が、しみぐ感ぜられた。今迄自分は、高校生になれたといふ考で浮きつき、やゝもすると超非常時局を忘れ勝ちであつた。成程駅伝が中止されたのは辛い、併し、自分の眼前には、実に大きな職分がある、我々は、一旦緊急ある際には、他の総てを忘れ国の為にならなければならぬのだ。（省略）

第一部 戦時下の思誠寮生

対寮駅伝大会中止



学徒勤労働員

戦争末期には、松高生たちも学徒勤労働員として、需要工場での労働をするようになります。昭和19年5月に戦時教育令が公布されると通年動員が始まり、同月に3年生が、6月には2年生が勤労働員として工場などに赴いて行きました。日誌には、寮初以来の難局に戸惑いながらも、迫り来る動員要請に覚悟を決める寮生の思いが綴られています。

第一部 戦時下の思誠寮生

学徒勤労働員

昭和19年5月3日中寮 豊田茂

十日前後から三年生が名古屋の工場に出動する旨校長先生よりお話があった。現在、否その様に考へる瞬間々々が第一線に於て決戦が行はれてゐる事を思へば一刻の猶予は出来ない。今や学生の本分といふのは単に学問をするといふ事に止らず、真に実用的な、又直ちに役立つ様な方面にも力を尽さねばならぬ。高校の理科生は未だ一寸の技術も修得してゐない。しかしそこに己の向ふべき道を明日にかゝげて、それに向ひ、一日も早く御奉公の出来る日の来る事を心待ちに待つて日々の生活を有意義に送らうではないか。

第一部 戦時下の思誠寮生

学徒勤労働員



学徒出陣

昭和18年には、高等教育機関在校生のうち文科系学生の徴兵延期措置が撤廃され、在学中でも徴兵されるようになります。同年11月には松高講堂にて出陣学徒壮行会が催され、12月には第一回学徒兵入隊が決行されました。寮生の中にも徴兵され寮を去る者があり、戦場に出陣する寮幹事を、奮起を促し盛大に送り出しています。

第一部 戦時下の思誠寮生

学徒出陣

昭和19年6月11日南寮 下島邦弘

先月の冬、旧室の幹事小林稜太郎兄の出陣の時、我々九・十号室の者は、女々しいとは知りつゝも過去二ヶ月の生活を顧みて、小林幹事が一人々々の手を握り、“頑張れ”と激励して下さった時、お互に涙を禁じ得なかつた。その晩、松高より駅迄寮歌を歌ひながら、南寮生は行進し、駅頭に於ける大デカンショにより大いに氣勢をあげて、ホームに於ては“直ぐに後から行くぞ”と誓つた時の事が忘れられない。その後旬日にして兎もするとあの時の感激が薄らぎ、妥協に陥り勝ちな自己を見て、慚愧に堪えない。安逸を貪り、易きにつかんとする傾向のある自分がうらめしい。現今国家非常の時にあたり、各自が一分一秒たりとも忽に出来ないのは当然である。ましてや日本の指導者たらんとする吾等高校生は、須く寸陰を惜むべきである。（省略）剩へ、寮の幹事が近く通年動員に出動せんとする時に於て更に奮起をうながさずには居れない。

第一部 戦時下の思誠寮生

学徒出陣



第一回学徒兵



壮行会

第一部 戦時下の思誠寮生

学徒出陣

昭和19年6月24日南寮 横川稔

二年生が勤務作業に行かれるのもすぐ先だ。寮の黒板は総務部からの告をしらせてゐる。入寮以来三ヶ月、其の間幹の御指導にも拘らず、未だ考浅く、何を考へても漠然としてゐる。奥村幹事も言はれたが、寮初以来の難局といはれてもピンと来ない。何かしら変調な感じはしても、その正体がはつきりとつかめない。これが今の自分の判らぬ気持である。又此の頃になつて自分の幹事にばかり頼つてゐた。安易につかうとする気持が感じられる。戦局が如何にあるかは今更喋々するまでもない。理科生の入営延期停止の噂もある。更に徴兵年齢の引下げも行はれるかも知れない。然し、誰でも覚悟は出来てゐる事だらう。唯その日まではやつて行く丈だ。

第一部 戦時下の思誠寮生

学徒出陣

卒業生履歴簿

各人の生年月日・出身地・出身
中学から進学先・勤務先までが
記されており、旧制高校生が国
家エリートとして管理されてい
たことが窺えます。

昭和18年11月に学徒出陣した
学生は、後に18年11月30日を
もって仮卒業となりました。

昭和十九年度 卒業生履歴簿		(種別) 支特12番
第 名 回	文科二類 種	
生年月日	大正十六年二月十日 生	
本 籍	北海道 上川郡(中)士別町(中) 字(中)	
入 学 資 格	昭和十九年三月 北海道(中)立川川 中学卒業(四年修了) 検定	
入 学 年 月	昭和十七年四月一日	卒 業 年 月 昭和十九年九月二十日
担任学級主任	第一學年	第二學年 第三學年
1) 学級總代	2) 報國團所屬	
3) 運動及趣味	4) 賞 罰	
5) 体格	身長 160cm 体重 45kg 胸圍 75cm 榮養 疾病(異常)	
6) 兵事關係	昭和十八年十一月一日付陸軍現役服役期間中休學下。同十八年十一月三十日付假卒業下。	
備 考	第一保證人 本籍 同シ 第一保證人 職業氏名 第二保證人	
卒業後ノ履歴		
大學入學前ノ經歷		
進入大學	昭和十九年十月	東京帝國 大學經濟學部經濟學科
轉學及轉科	昭和 年 月	大學 學部 科
大學在籍事項		
卒 業	昭和 年 月	
稱號及學位	學士 博士	(昭和 年 月)
備 考		

松本高等學校

6) 兵事關係 昭和十八年一乙入黨。同十八年十二月一日付陸軍現役服役期間中休學下。同十八年十一月三十日付假卒業下。

第二部 戦後の思誠寮生

敗戦によって平和が訪れ、突如与えられた民主主義という新たな価値観のもと、理想の実現に向けて邁進していく思誠寮生。その伝統は、松本高校が信州大学となった後も、脈々と伝えられていきます。日誌からは、国に盲目的に従ってきたことに対する反省とともに、大きく変動する世界情勢の中で、人間とは何かと問いかける姿を見ることができます。



第二部 戦後の思誠寮生



松高第三十期生



戦後のコンパ

第二部 戦後の思誠寮生



信州大学文理学部第一期生

第二部 戦後の思誠寮生

昭和24年12月14日北寮 塚本晶造

(省略)確かに奇怪な、大君の為とか忠君愛国とか、さうも教へられ、自分もさう考へ、又そのように行動し、恥も忍び、辛いのも耐へて居った。さう言ふ事を教へてくれた人は、それ以外に何も教へてくれなかった。天皇は人間であると知って居っても、神であると思はせられた。(省略)そこに絶対性を見出して、了として居ったからだ。最後の休暇で帰省した時、未だ在郷の学僚に決死行をすすめた。その頃の俺はもう、大君以外の何物も眼中になかった。自分の気持に余裕を与へてはいけない。それは反軍国主義的な事であると思つてたからである。(省略)ほつとした敗戦から4里霜、俺はもう信じる策と言ふ事をしなくても生きれるようになった。全てのをうたがふようなくせもついた。主義とか思想とか党略とか言ふものに束縛されて、自己の感情までも犠牲にする必要はなくなる程、斗争しなくてもよくなった。それも敗戦の賜物である。(省略)

第二部 戦後の思誠寮生



髪を伸ばした学生達



縄手通りのデモ

第二部 戦後の思誠寮生

昭和24年12月15日北寮 まつおか つねみ

俺達は今一つの過渡的段階の嵐の中に立たされている。(省略) そう、
変革の時が今だ。(省略) 俺達も、軍国調のリズムにのせられて踊り
狂った、あの戦争。(省略) そしてその結果が、相対的な真理に近い
ものの勝利に終わった。そして俺達はこの時始めて眼前の膜を取り去
られた。嬉しいのか、それよりも増して始めてみる世の中の姿に唯茫
然としていたのが、外知らず俺達であったらう。それは当然だ。世の
中一社会一政治に関しては、盲同然の俺達であったのだから。(省
略) 何時の時代でも色取り取りの、ヴェールが俺達の眼を強く刺激す
る。(省略) 只、自分が如何にして、其の過度の波に打克つ事が出来
るかを考えて欲しい。(省略) 戦争が終わった。だから勝手だ。何しろ
自由なんだから、と言った行き方に対しては俺は反バクする。こうし
た便乗の中に再び過去の過失の芽が娩んでいるからだ。絶望し切った
自己から、過去より一段発達した自己を求めたいものだ。(省略)

第二部 戦後の思誠寮生



復活したインターハイ



戦後のホール

第二部 戦後の思誠寮生

昭和25年1月24日北寮 塚本品造

世ノ中モ又大分複雑ニナツタ。コレデハ精神分裂症デナイ方ガドウカシテ居ル。今ハナキ松高ヲ見テモ、蛙公ノ時代モ安ジルノ時代モスギタ。信大ニ生レカワツテモ、竹内サンヂャロデワリ切レテモ實際ハ割り切ル事ガ出来ナイ。信大ノ教授ノ勢力デスラ分裂シテ来タ。(省略)コノ様ニ日本ヲ(ママ)割レ始メテ居ル。白足袋サンデモ、党ノ一本化ハダメラシイ。マシテ民主ノ統一ハムリナ事。社会党モ、神話ノ時代ノヨウニ1ツカラ3ツニナツタ。共産党モトンデモナイ声明ヲ続ケテ出シテシマッタ。(省略)ダガ、ソレ程不自由ジャナイダロウ。人民ノタメニ、貧民ノタメニ斗ヒヲ決意サレタ人達ダカラ、革命ガ成功スレバ立派ナ世ノ中ガ来ルト言フコトヲ聞カサレテ居ルカラ、俺ノヨウナ奴ハソレヲ眺メテ居ルダケデ結構ダ。(省略)旧日本海軍ノヨウナ、世界史上カツテナイ惨メナ敗ケ方ヲセヌヨウ努力ベシダ。理想ニ向ツテ進ム青年ハ美シイ。ダガ自己ノ打算ノタメニ主ギヲ利用スル事ハヤメタ方ガイイノジャナイカナ。

第二部 戦後の思誠寮生



原爆で倒壊した広島高校



軍部批判の飾り付け

第二部 戦後の思誠寮生

昭和25年2月17日中寮 唐沢耕平

最近の世界情勢は何となく面白くなって来た。米ソの対立に、他のガシャガシャした国があっちへ着きこっちへ着いて、地球上も空前の賑さを呈して来た。原子爆弾も、アメリカとソ連を合せば数百個は有るだらうし水素爆弾も生れて来たから、どこかで一発弾いたら、さぞ地球は変り果てるだらう。併しこの第一発が平和の為に使はれるか、戦争の武器に使はれるかが、生か死滅かの分れ道だ。原子爆弾の投下により、第二次世界大戦が終ったが、続いてcold warが起って来た。お互に戦争は止めやうと言いつら、盛に勢力を貯へて居る。日本も戦争を放棄したとは言へ、盛に国内でcold warをやって居る。左右がますます離れて行く。こんな時に、世界にhot warが起ったら、日本は利用される可能性がある。左右が意地を張らずに接近して世の中を改善すべきだ。資本主義者のアメリカ様様や、共産主義者のソ連一辺倒は誰かの言ってみる“民族の独立”、“植民地化反対”に反対するものだ。どちらも腹の黒い狡猾な国だから。

第二部 戦後の思誠寮生

昭和24年12月6日北寮 花岡良一

20世紀の前半も今や終止符を打たんとしてゐる。そして同時に後半期は始まらんとしてゐる。“歴史は繰返す”これ唯に人間性の発露の何ものでもない。必然的な人間性の発露に外ならない。我々はこの歴史的現実に対して、率直な眼を以て、見つめなければならない。ゆがんではない、偽マンであつてはならない。人間性の命ずるままに。“合理は合理を生む。”といふ哲学的意味は何れとして、我々はあくまでも合理的且つ倫理的でなければならない。20世紀の後半期は如何なる歴史型を以て我々に迫って来るだらうか。期待する処、実に大だ。赤か？黒か？それとも白か？この偉大な問題を決する、いやこれに答へるのは、やはりこの人間性（Humanity）だ。人間だ。歴史は何処へ！！

第二部 戦後の思誠寮生

昭和24年12月18日中寮 柳沢義博

(省略) 我々の自身の中に、如何なる変化が行はれて居るだらうか？もし君が真の幸福を求めるならば、行く道は一つしかない。先づ勉強して実践だ。それには、僕等は物の根本的な見方を養はねばならない。僕達自身のゆがめられた人間性を改かくする事だ。先づ、主体性を確立する事だ。手近なことからでいい。ブル新をよんでも、感情を排して真理は見出せる。又殊に、女性に対しての自身の感情を反省してみよう。ゆがめられた何ものがひそんで居ないだらうか。我々は正しい楽しい生活を求める。幸福を求める。それには何もひるむ事はいらぬ。つまらぬ幻影にビクツキ、自分から自己をしばり、ある範囲の中にとじこもろうとして居る一部の人達は獣とひとしい。(省略) “戦争は終わった”と宣言の出来る国に、戦争を必要としない社会に、僕達は歩みをつづけよう。耳をすましてみよ。うたごえと足音がきこへてくる。のろしの様な人民の歌声。隊伍をくんだ、たくましい足音。ああ、高まってくる。近づいて来る。

目次

プロローグ

1. 自治こそ寮の誇りなり
2. 記念祭にかける情熱
3. 戦争と思誠寮生
4. 信州での寮生活



4. 信州での寮生活

寮生日誌を開くと、自然豊かな信州の地で高校生活を送る思誠寮生の姿が見えてきます。第一部「移ろう季節と高校生活」、第二部「信州の山に思う」、第三部「戦時の信州にて一旧制高校生としての矜持―」の三部構成で、雄大な信州の自然を通じて学問や自己に対する思索を深める寮生の姿を追っていきます。

第一部 移ろう季節と高校生活

自然豊かな信州の地で、旧制高校の寮生たちは寮生活を過ごしました。四月の雪、満開の桜、アルプスの風、県の森の新緑、澄み切った秋の夜空の月…。移ろう季節の中で、自然の美しさを感じる寮生の姿が日誌には映し出されています。



春

第一部 移ろう季節と信州の山々

昭和18年4月17日北寮 中村清二

本日晴。松本の寒いのにはおどろいた。東京はもう既に桜は満開だといふことを聞いてゐる。松本はまだ蕾だ。丁度自分等の生命に似た様な処がある。我等はまさにこれから華やかな頃を迎へんとしてゐる。讚春符はこのくらみにして。我々新入生が松本へ来て先づ感じたことは自然の美しさである。実に何とも云へぬ。生まれてから東京にばかり育った我々にとって、自然の姿は最も勇ましくも気高い感じをあたへる。我々は真に松本高校へ合格したことを幸福と云はねばならぬ。この二年間を自然の内に洗はれて、再び来ぬ春を喜ぶことは、我々松校生のみにあたへられた特権である。終り。

春

第一部 移ろう季節と信州の山々



片端の夜桜



いちご狩り

春

第一部 移ろう季節と信州の山々

昭和18年5月9日北寮 塚田光夫

日曜、自分の思ひの儘に利用し得る一日、木・金・土と五指を折りながら待ちこがれて居た。そしてあれやこれやとプランを立てゝ居たのであるが、もう矢の如く陽は西山に沈みかけて居る。『我々は前週、感激に富める生活をなせしか、悔なき意義ある高校生活の一頁を想像し得たぞらうか』と反省をして見よう。とにかく我々の生活は夢になり易い、最と最と己自身を直視して行きたい。(省略)早く、この松本と云ふ土にどっしりと腰を据え、よき花が咲き、よき実のならん事を望みたい。まだく出稼根性の腐れ気がのこってはゐないでせうか。……或は、これも高校生活の精神的過程の一つにすぎないかも知れませんが。…もう、全くの春である。花が薫り、緑葉がにほふ。我々も大いにこの春の太陽を享受し、未来への準備にいそしまう。世の光、地の塩とならう。

春

第一部 移ろう季節と信州の山々

里山辺のれんげ草



城山の桜



夏

第一部 移ろう季節と信州の山々

昭和18年度7月8日北寮 石川達芳

綿の様な白雲がぽかぽかと浮いて、そこらの木蔭に蝉の声がしはじめると、高原松本にも、「はゝ松本に夏がやって来たなあ」とうなづかれる。松本の夏はそっとしのび歩きでやって、がぼと、はねかへる。此の間まで裸で、木枯にうなつてゐた県の森ももはや鬱蒼と茂つてゐる。あの枯れた様な枝の隅々まで何時も絶ざる努力をし続けた事に驚嘆する。ほんの目に見えない小っぽけの努力がかくも大きな結果に達するかと思ふと「何時も」と云ふ言葉はおろそかに出来ないと思はれる。(省略)一学期もあます所僅かとなった。来学期こそ、あらゆる点に改善して頑張らう。そして真の意味の楽しさを満喫しよう。

夏

第一部 移ろう季節と信州の山々



夏のプール



あがたの森

秋

第一部 移ろう季節と信州の山々

昭和17年9月30日北寮 柚木允克

松本では秋の来るのが早い。故郷にあっては九月の下旬では夏の延長としか感ぜられないが此処ではもう完然（ママ）な秋だ。自分等の初めての学期を終へ明日からは二学期に入らうとする。此の時に当り今迄の生活を振り返って見れば何故かくも無駄な時間を費した物なんだろうとくやまれてならない。しかし自分にとって今はくやんでる時ではない。新らしい高校生としての生活を始めなければならない。一学期は今思出して見れば夢の様な感事だ。しかし自分は二学期を真の意義のある夢とせねばならない。

秋

第一部 移ろう季節と信州の山々



ぶどう狩り



薄川原の月見

冬

第一部 移ろう季節と信州の山々

昭和17年12月5日北寮 大戸或也

高原の冬、私は初めて知った高原の冬の美しさにとらはれるより、その醸し出すさびしさに倒されんとしてゐる。数日前私は初冬の木曾路を歩いた。緑の流れは足下にひびく。私はそのさみしい路を懐古の念に駆られて、古き路筋をなま温い光をあびて歩いたのであった。私はその道が、木曾路だから愛しもし又美しさにもとらはれるのであることを信ずる。一体私達の心には、善なるを知ると、善を不（ママ）定せんとし、悪を知って悪を行はんとする傾向があるのではないだろうか。（省略）

冬

第一部 移ろう季節と信州の山々



スケート



第二部 信州の山に思う

山に囲まれた大地、信州松本。寮生はその地で眼前に広がるアルプスの山麓を眺め、日々を過ごしていました。その雄大な自然の姿は寮生を圧倒しながらも、日々彼らに驚きや深い感動を与えます。その中で暮らし学問に、そして自己に対する思索を深める彼らの姿がありました。

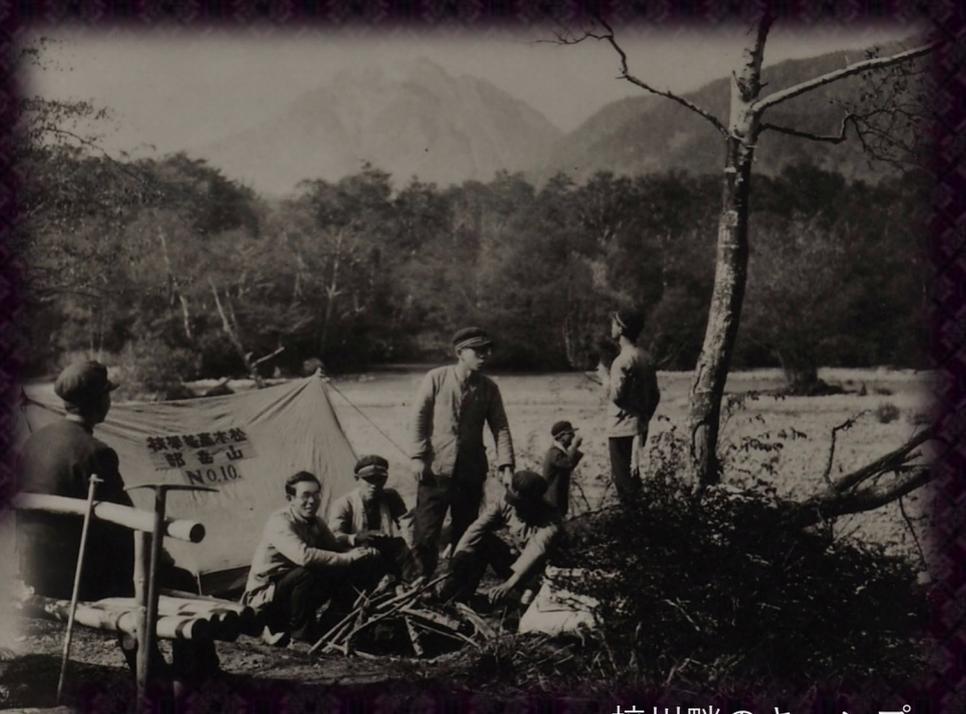


第二部 信州の山に思う

昭和17年4月22日北寮 深瀬幸重（アルプス）

或る先輩は云った。「白線をつけてあるものよりも白線に憧れて努力しつゝある姿の方がより尊厳である」と。Heronの公式を捻り廻してある時代の僕にとっては、何よりもその言葉は僕の力を奮ひ起たせて呉れた。今僕は、**アルペンのもと白線をつけて日を送る**。然も一百の寮生と共に。其所に価値づけられた日々の生活は、今おもむろに頭を上げつゝある。それと共に先の言葉はだんだんと影を消しつゝある。寮生活、先輩の伝統に生きて、伝統を創造する。自分は今其処に生き甲斐を感じてゐる。だが入寮以来日は浅い。寮生活はこれだけではない。伝統を創造する諸兄共に頑張らう。

第二部 信州の山に思う



梓川畔のキャンプ



浅間温泉と北アルプス

第二部 信州の山に思う

昭和17年5月6日北寮 新井包美（美ヶ原）

新緑の五月となり僕の苦しみはますますはげしくなった。朝、昼、夜と一日を過して夜静かに反省する時実に我ながらなさけなかった。寮に居て十分落ち着ける筈なのに日々のがらに追はれ、何の発展もなく過ごしてゐた。入寮当時のあの意気はどこへやら、飛んでゐってしまった。しかし、今日から僕は昨日までと違ふ昨夜帰寮の時見た薄川の流れと南寮の窓にもれる光は僕の心を奮起せしめた。やるぞ、本当にやるぞ、心から誓ったのであった。そして今朝起きた時実にひさしぶりで本当に心がさえざえとした。**王ヶ鼻に向って叫けぶ弥栄**。朝の清い大気の中で行ふ体操一つとして心の糧にならぬものもない。（省略）しかし今日新しい気持を持って考へた時実に同室のものの感化が大なるものが解ったのである。駅伝以来北寮の生活が緊張をかけたようにおもわれてならぬ。（省略）

第二部 信州の山に思う



美ヶ原、王ヶ鼻の岩場

第二部 信州の山に思う

昭和17年5月24日北寮 大戸（美ヶ原）

美ヶ原遠足、私は今まであまり自分のみしかながめてみなかった。
（中略）私は都会に生れ、都会に育ったので、自然と云ふもに（ママ）
関して私はまったく無智であったが私は今はその無智をつくづくと感じないではみられない。私の歩んでゆく道に、山かげに、木の間、如何に多くの生命物が存在してゐるのであらうか。私はあらためて驚きの声を発したのであった。たとへ一つふの種にも生命はあり、その存在は厳としてたまつてゐる。私個人なるものゝ少さきことよ。又黙々としてうごめく運動物達の栄々たる働たとへそれ自身にとっては如何に困難であらうともその天より享けたる力をかぎりなく活動出来る喜ばしげなる様、あゝ私は自然を忘れてゐた。自然に対して若き情熱を力の限り入れねばならない。私のすべては自然の中にあるのだもの。（省略）

第二部 信州の山に思う



美ヶ原にて

第二部 信州の山に思う

昭和19年5月7日中寮 古山純（城山公園からのアルプス）

他事を一切忘れて心を唯ボールの一点にのみ集中し青年の意気を残りなく発揮し我々は籠球に愉快なる一時を過した。運動後の愉快さ又格別の物有り。これから後も中寮全員和合の為めにも屢々籠球蹴球等を行ふ事を希望す。天気の良い為寮に居るのがもったいない気がして城山へ行き松本平を見渡すと何となく心が伸び伸びとしてアルプスの雄大さに打たれた。然し学問の山はそれよりもはるかに高く到底その絶頂を極める事は不可能だけれども我々は絶頂に達すべく一步々と努力せねばならぬ。自分が此の室に入り天井を眺めた際天井に先輩の名の書かれて居るのを見出した時何とも云へな懐かしい気がし後々も寮生活の励みと云ふか何と云ふか一寸言葉に現はせないがそれになった。落書をする事は悪いかも知れないが後輩にかくの如き良い影響を与える点必ずしも悪い事では無いと思つて居る。

第二部 信州の山に思う



第三部 戦時の信州にて

—旧制高校生としての矜持—

戦争の渦中にありながら、美しい自然に囲まれ、平穏な日々が続く信州の地。松高生たちは、学徒として、未来の国家指導者として、様々な思いを胸にして学生生活を送っていくことになります。



第三部 戦時の信州にて

昭和19年4月18日中寮 和田晃郎

思誠寮の大行事たる団体行軍も漲る熱と意気とを以て修了し寮生活は今や本格的なる段階に突入し我等が高校生活の真髓を發揮すべき時期はまさに到来したのである。朝日に映ゆるアルプスの秀峰のもと常にその気高さを心に持しそのものに動ぜざる雄大さによって浩然の気を養ふ我等松高生こそ実に憂国の志士として将来の国家を隻（ママ）肩に担ふべき使命を有してゐるのである。されば我等高校生活の三週間に入れる今日奮然立ちて或は学業に或は身体の錬磨に邁進し将亦思想思索の健全確呼たるを期しあくまでも闘魂を奮ひ起して高校生活寮生活を戦ひ抜かんとする決意を定むる次第である。

第三部 戦時の信州にて

昭和19年4月30日中寮 櫻井健郎

(省略)東京に於ける生活は、生活そのものが、戦争であり、連日の爆音は都会人の神経をいやが上にも鋭がらせる。然し松本に於ける生活は一面に於いて戦争を忘れ得る生活である。忘れ得る生活であるが故に我々はそれを忘れ得ないのだ。飛行機も飛ばない。防空演習もない。食料不安も深刻な影響を与へはしない。けれどそれは我々の内的生活の根本的改革を要求して居るのだ。(省略)死と言ふことによって、死に直面した時、その人の最も本質的なものが、にじみ出て来る。そして表面はいかに虚偽に満ちた物であっても、死に臨んだ時その人の生活は真実な物になるのだ。我々は今此の死に面せる生活を営んで居るのだ。戦局が苛烈になるにつれて我々の生活は真剣になって行く。勿論それは戦争に熱狂せる刹那的な生活であってはならぬ。死に面する生活を如何に真実に、自己に忠実な日々を送り行くかと言ふことだ。

第三部 戦時の信州にて

昭和19年8月1日南寮 山口泰治

夕食後窓に腰かけて遠く山々を眺める。そして大自然に対する限りない愛着と、その中に生活し得る喜びを感ずる。西の山の端に沈まんとする陽の光を真向から受けて東の山々の木々の緑は滴る様な爽やかな美しさを見せる。すでに入寮以来四ヶ月は経ち一学期の授業も終り一学期の寮生活をするのも後四日しかない。(省略) **美しい大自然に囲まれた松本の地に生活する我々は美しい雄大な気持を持ってゐなければならない。此の自然の中に育まれてみると、つい緊迫せる時局に対し兎角忘れ勝ちになるが時局の波もひしくと高校生活の中にも滲み込み其の趣を異にして来たが我々は飽くまで高校生のプライドを以って何時如何なる方面に召されるとも卒(ママ)先陣頭に立って闘はねばならない。**

(省略)我々は過去の生活でぬかって点を補ひ過去の生活を反省して更に充実せる生活を送らなければならない。我々は何事にも屈せず闘って行かう。

第三部 戦時の信州にて



約百廿機の主力 帝都夜間爆撃

火災八時頃
までに鎮火
十五機を撃墜

大本營發表 前日二十三日午後二時三十分、時辰より二時四十分の間B29約百二十機手を以て帝都に突襲市街地を盲爆せり。右盲爆により市内各所に火災多発したるも、富内省主官寮は二時三十分其の他は八時頃迄に鎮火せり。

単機毎に低空投彈

千歳、東北にも各十機内外
理先迄に判明せる爆撃次の如し
撃墜十五機 損害を與へたるもの約五十機
外間野田平野野原の諸機、市街地を盲爆せり。市内各所に火災多発したるも、富内省主官寮は二時三十分其の他は八時頃迄に鎮火せり。

栗林指揮官陣頭に 全員總攻撃を敢行

十七日夜半通信絶ゆ

大本營發表 同日二十三日午後二時三十分、時辰より二時四十分の間B29約百二十機手を以て帝都に突襲市街地を盲爆せり。右盲爆により市内各所に火災多発したるも、富内省主官寮は二時三十分其の他は八時頃迄に鎮火せり。

壯烈 硫黄島勇士

敵陸上損害三萬三千
南關堅守一ヶ月
神兵數百最後の突撃

敵兵力の七割三分を殺傷
敵陸上損害三萬三千
南關堅守一ヶ月
神兵數百最後の突撃



硫黄島勇士
敵陸上損害三萬三千
南關堅守一ヶ月
神兵數百最後の突撃

最後に

旧制高等学校といえば「学生寮」というほど、両者の結びつきは強く、全国から集まったエリート達は、学校においては「教養主義」、学生寮においては「自治」の洗礼を受け、記念祭・寮対抗駅伝・対寮マッチなどの行事を通じて、人間として成長を遂げていきました。

昭和22年（1947）教育基本法の公布により、24年度には松本高等学校を母体に、新制信州大学文理学部が発足します。思誠寮も大学に引き継がれ、現在に至ります。

「思誠寮生の青春日記」

全編クレジット

信州大学モーションロゴ	ディレクション：蛭田直（教育学部） モーション制作：千吉良祐弥（教育学研究科 学生）
70周年記念モーションロゴ	モーション制作：千吉良祐弥
スライド 制作・編集	蛭田直 船田亜美、小嶋由貴子、丸山いずみ、溝口美華、 百瀬奈津実、嶋田彩乃、渡邊あさ美、中村明日香、 清水想史、浅井普成、長谷川彩香、松岡鉦子、 鈴木映梨香、中川あゆみ、崑奈於美、丸岡芽衣、若林美歩、 中沢ゆり、中畑ひかり、中村恵（人文学部 学生）
スライド 原案	渡邊匡一（人文学部）
協力	信州大学 附属図書館
制作	信州大学 大学史資料センター